

クルマハムシ

有明森林でオニグルミの若木の多くの葉が葉脈だけにされて食い荒らされていました。おそらくハムシの仕業だろうと思ひまして犯人を捜しましたが、幼虫は全く見つかりません。成虫と思われる小さな甲虫が葉の裏に止まっているのを数匹確認できましたので、その1匹をデジカメで撮影。その画像をご覧ください。筆者の左手親指の大きさと比べてください(右下)。帰宅して調べてみました。やはりこいつが犯人でした。そのものズバリ、クルマハムシの成虫でした。画像の記録は2017年8月2日12時41分でした。



ネットで見つけたこの虫の拡大画像(右下3枚目)をご覧ください。前胸部の両側面に橙黄色のはみ出しが特徴です。体長5~7mm。分布はかなり広く日本全土の他朝鮮半島、中国、ロシア極東とのこと。成虫の出現は5~8月。食草はオニグルミ、サワグルミです。



卵を孕んだ♀の腹は風船のように大きくふくらみ(右下4枚目)、♂と交尾の後、一か所にまとめて産卵しますので、幼虫たちは集団でクルマミの葉をたちまち葉脈だらけにしてしまうのです。幼虫たちの天敵としてカメノコテントウがいるにはいますが(下左)、幼虫の数が多いので、襲われても全滅を免れるわけで、それらが集団で葉軸にほぼ等間隔でぶらさがって蛹化いたします



(下右)。蛹たちはよく目立ちますが、天敵がないようなのです。何らかの毒素をもっているとの説がありまして、堂々と姿をさらしても襲われないとのこと。カメノコテントウだけは幼虫が持つ毒素を解毒する機能があるのでしょうか。自然の仕組みは奥が深いのです。神様はあらゆる自然にご配慮していただいていると、しみじみ感じる次第でありました。

